

地域の米の消費量 up を目指して

2年1組 小松 凌大 2年1組 薬師神杏美
2年2組 水野 陽向
指導者 二宮 政人

1 課題設定の理由

日本では、米の一人当たりの消費量が昭和37年度をピークに減少傾向にある¹⁾。その中でも愛媛県は最大35位(2012~2021年)と低い。食料自給率の低い日本が、将来にわたって持続的に発展していくためには、中長期的な米・麦・大豆をめぐる情勢の変化を見通しつつ、需要に応じた生産を推進し、収益力を強化することにより、足腰の強い産業にしていく必要がある²⁾。したがって私たちは、まずは地域の米の消費量を増加させたいと考え、本研究を行うことにした。

2 研究方法

まず、宇和島東高校の生徒・教職員に対して、日常生活における米に関するアンケートを作成し、実施した。また、愛媛県内にあるフジ・フジグラン各店の米(玄米等も含む)の購入者に関するデータ³⁾から、年代別に買上実積率(期間中何かしらの商品を購入した全会員数に対する米カテゴリーの購入者の割合)と時間帯の関係や期間併売(部門)と買上実積率の関係を分析し、比較した。※期間併売:2023年9-10月に米の購入者の他商品

3 研究結果

①宇和島東高校の生徒・教職員に対するアンケート結果 (n=198)

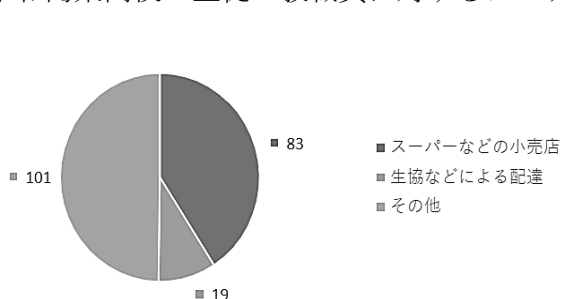


図1 普段米を購入している場所

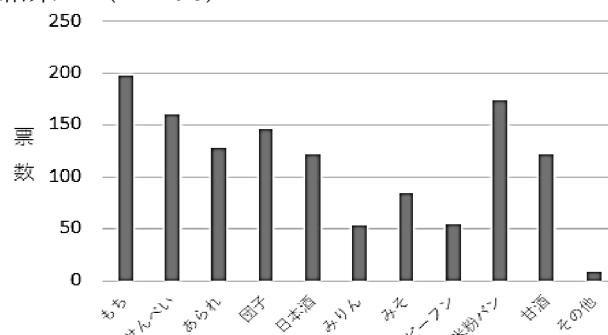


図2 米からできているもので知っている製品 (※1人複数回、回答可能にしている。)

図1より、普段米を購入している場所はその他が約半分という結果になり、内容は「家族が育てている。」「祖父母からもらう。」「知り合いの農家さんからもらう。」など、米作りをしている身近な人からもらうという記述が多かった。また、図2より、米からできている商品としてみりん・ビーフンがあまり知られていなかった。さらに、ご飯の魅力とパンの魅力をそれぞれ質問したところ、ご飯の魅力は腹持ちがいい、何にでも合う、おいしいという意見が多く、パンの魅力はおいしい、種類が豊富、手軽に食べられる、おかずやおやつとしても食べられるという意見が多かった。

②愛媛県内にあるフジ・フジグラン各店の米(玄米等も含む)の購入者に関するデータの分析

図3、図4の縦軸は、フジの米の年代別買上実積率(2023年9-10月の米購入者)を表す。また、対象者はフジ会員のみであり、愛媛県の全店舗(54店舗)の9月から10月のものとする。

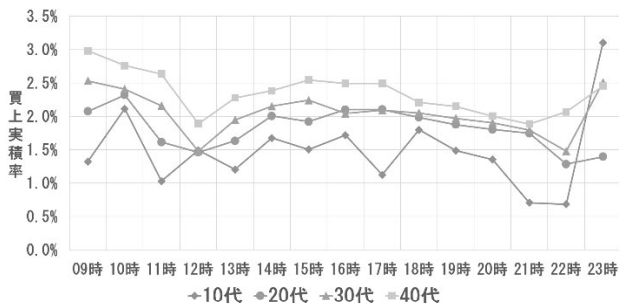


図3 フジの10代から40代の米の買上実積率と時間帯の関係

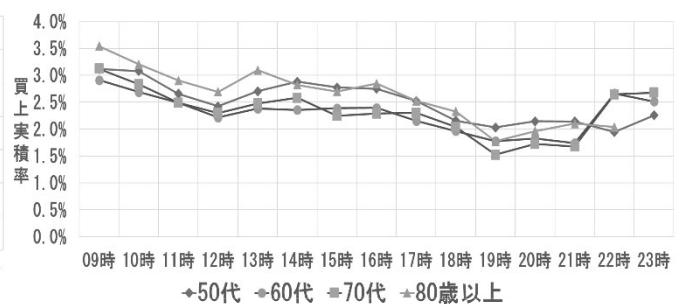


図4 フジの50代から80代以上の米の買上実積率と時間帯の関係

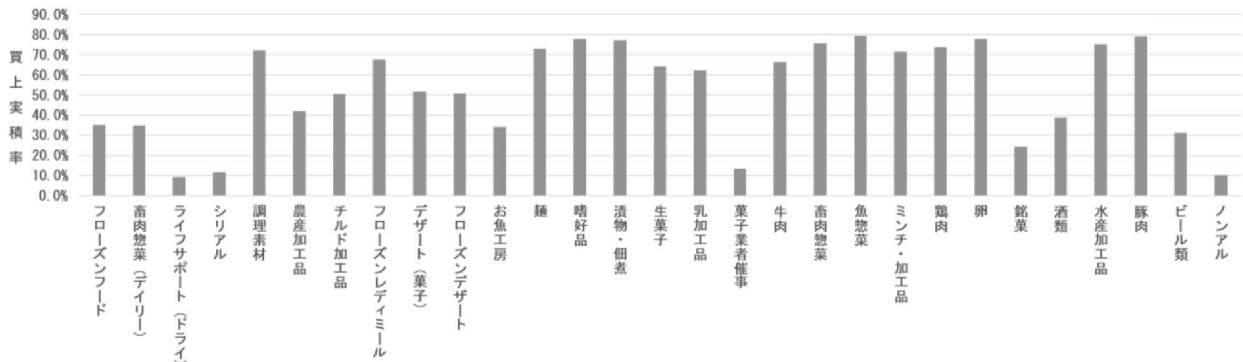


図5 期間併売（部門）と買上実積率の関係

4 考察

まず、宇和島東高校の生徒・教職員に対するアンケート結果の図1より、お米は、米作りをしている身近な人からもらうという記述が多かった。したがって宇和島市においては、「地産地消」が進んでいると考えられる。この傾向をこれからも保っていくことが重要である。

次に、フジの買上実積率のグラフ（図3、図4）から全体的にみると50代から80代以上の人の米の買上実積率が多いことがわかる。また、9時から10時の買上実積率がどのグラフも多く、21時から23時にもすべてのグラフの買上実積率が一度上がっていた。このことから、お店で買い物をする人は50代～80代が多く、それ以外の世代は仕事帰りの遅い時間帯にお米を購入している可能性が高いと考えた。よって、お米とともに、図5において買上実積率が70%を超える部門の食材を使ったお弁当を販売すれば、よりお米が売れ、消費量が増加すると考えた。さらに、宇和島東高校の生徒・教職員に対するアンケート結果より、パンの魅力は「手軽に食べられる」という意見があることから、全世代で買上実積率の高い午前9時から10時の間に、米粉パンなどお米でつくられた、手軽に食べられるものを販売するとお米の消費量が増加すると思われる。

謝辞

本研究を進めるにあたりご指導・ご助言していただいた、株式会社フジ・リテイリング企画・マーケティング部販売促進・マーケティング課 矢野恭子様はこの場をお借りして感謝申し上げます。

参考文献

- 1) ジャパクロップス <https://japancrops.com/prefectures/ehime/rice/rice/>
- 2) 愛媛県農産園芸課 <https://www.pref.ehime.jp/h35500/beibaku/documents/shinkoubijyon.pdf>
- 3) 愛媛県内にあるフジ・フジグラン各店のデータ

集計期間：2022年11月～2023年10月末及び2023年9～10月

対象カテゴリー：米（玄米等も含む） 対象者：米購入金額年間7000円（年平均）以上の購入者

- 4) 農林水産省 <https://www.maff.go.jp/>